



紫芳会だより ～輝く先輩達～

No.20
2014.4.1.発行

気象予報士 防災士

佐藤 公俊氏 (高校43期)

NHK正午前の気象情報出演中

1973年2月22日 東京都立川市生まれ
明治大学農学部在学中に第1回気象予報士試験で資格を取得
1996年日本気象協会入社
2003年からNHKの気象情報に出演し
2010年から正午前の気象情報に出演中
特技は、手話、野球、パントマイム
著書『天気と気象 異常気象のすべてがわかる!』学研パブリッシング



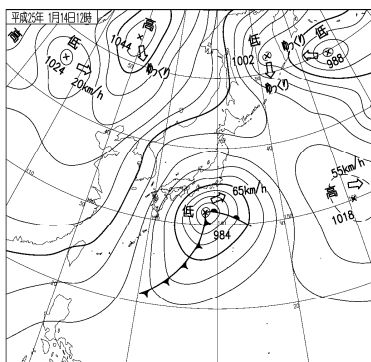
私の立高の思い出と言えば野球一色だったように思います。朝練に始まり、休み時間に弁当を食べ終え、昼休みも練習、放課後も練習、家に帰ってからも素振りなど自主練といった感じでした。3年の時は主将を務めたこともあり、いかにしてチームを強くするかをずっと考えていたように思います。結果は残せませんでした。今振り返っても、ここまで一つのことに集中し、仲間とともに考え、全力を打ちこめたことは、かけがえのない財産です。この経験が私の今のベースになっているような気がします。ぜひ、後輩の皆さんにも、貴重な高校3年間、何かにリミットを設けず集中して打ち込んでみると良いですよ。

大学は、自然科学系が好きでしたので、農学部に進み、都市緑化の研究をしました。大学在学中に気象予報士の第1回試験があることを知り、チャレンジした所、運よく合格しました。就職は、気象予報士を生かした仕事がしたいと思い、第一志望は日本気象協会でした。気象協会には当時NHKに出演されていた高校20期の村山貢司さんがおられ、大変恐縮しましたが思い切って連絡をさし上げた所、色々とお世話になりました。結果、気象協会に入社することができ、立高の先輩のありがたさを強く感じました。

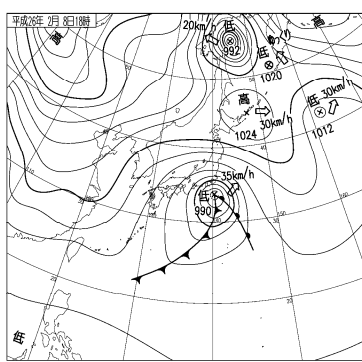
入社してからは、天気図の作成や電話の天気予報177の吹きこみ(今は自動音声ですが)、原稿の作成、ラジオの出演などをしていました。NHKテレビの気象情報には2003年から出演し、今年で11年が経ちます。担当する時間も色々経験させていただき、これまでに朝、昼、夜とあらゆる時間帯に出演しています。朝の時は午前3時に出社と暗い中から仕事が始まり、夜の時は深夜0時半までの勤務でした。気象の世界は24時間止まることなく、あらゆる時間に誰かが働いています。

天気予報とは、未来を予測することであり、大変な魅力を感じます。また気象は穏やかな表情だけでなく、時には人の命を奪う恐ろしい表情にも変わります。災害が予測されるような台風などの時は、臨時放送などで忙しくなりますが、一番やりがいを感じる瞬間でもあります。

現在の正午前の出演時間は6分と短いですが、準備には数時間かけています。まず様々な資料からどんな気象が予測されるかを考え把握します。その中で災害に結びつく現象はないか、視聴者にとって大切な情報は何かなどを考えながら、実際に放送で使用する画面とその順番を決めます。最後に話すコメントを考えて放送となります。常に気象は変化し、また生放送は想定外のことが起こることもあり、冷静な判断は大切です。今後も「より分かりやすくよりの確に」をモットーに皆さんから信頼される予報士になれるように頑張っていきます。



2013年1月14日の天気図



2014年2月8日の天気図

《予報士泣かせの天気図》

難しい予報の一つが関東の雪です。関東で大雪になるのは、左の二つの天気図のような「南岸低気圧」です。左側の天気図が去年の成人の日、右側が今年2月8日です。

去年の成人の日は、積雪の可能性が小さいとの予報でしたが、実際は東京で8センチの積雪となり、今年2月8日は東京で積雪27センチと45年ぶりに25センチを超えました。

関東の大雪は、雨になるか雪になるかのぎりぎりの時に起こるため、気温が1~2℃ずれるだけで雨と雪が変わってしまいます。少しのずれで大雪になることがあるため、南岸低気圧は難しく予報士泣かせなのです。